

第1号

○令和6年度
・第1回理事研修会



発行
北海道小学校長会
札幌市中央区北5条西6丁目
第二北海道通信ビル306号室
TEL 011-218-9850
FAX 011-218-9851
e-mail: h.s.k-32@dousho.jp
https://www.dousho.jp/

令和6年度 第1回理事研修会

☆令和6年5月14日(火) 9時30分より
☆会場: ホテルライフオー・札幌

【報告事項】

- 教育情報について
- 会務報告
- 道小教育研究空知・岩見沢大会について

【協議事項】

- 令和6年度の活動推進について
- 副会長、理事の専門部所属について
- 専門部会開催について
- 各部年間活動計画について
- 道教委への要望活動について
- 第67回道小教育研究空知・岩見沢大会の分科会運営者の所属について
- 企画研修委員の委嘱について
- その他

【道教委講話】

- 義務教育課より
(教育課程の適切な編成・実施について)
- 特別支援教育課より
(特別支援教育について)
- 教職員育成課より
(新たな研修制度による教職員研修の充実について)
- 教職員課より
(期限付き教諭の欠員状況と今後の配置の見通しについて)
- 教育研究所より
(令和6年度北海道立教育研究所研修講座について・令和6年度地域研究サポート事業について)

【連絡】

- 地区研修補助金等について
- 第76回全連小研究協議会
徳島大会について
- 道小教育研究空知・岩見沢大会
分科会運営者研修会について
- 全道会長研修会に関わる
事前調査について
- 各部からの依頼事項
- 各種送付数、弔意、
全連小バッジ等について
- 次回第2回理事研修会について
- その他

黙祷

開会に先立ち、故 刈谷 忠司 校長(小清水町立小清水小学校)への哀悼の意を込め黙祷を捧げる。

1 開会の言葉 ……………村井 亨 副会長

昨日の総会で、令和6年度の道小がスタートした。理事の皆様には、1年間お力添えをいただくようよろしくお願い申し上げます。

さて、令和5年度は学校に影響する様々なことが起きた。振り返ると、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、少しずつ通常の学校生活に戻る1年であった。夏休み明けには、北海道ではないような猛暑が襲った。この猛暑によって痛ましい事故もあり、夏休みの延期、クーラー設置などの議論が起こり、その対応は今年度に行われている。私の現任校は留萌市であるが、冬は大雪で市内の路



線バスが1週間運休し、学校も臨時休業などの影響を受けた。今年の元日、能登半島地震が起こり、大きな被害があった。道小も寄付を送らせていただいた。しかし、4か月を過ぎても、断水が続き、避難所の生活が続いている。学校も避難所になっている。今後もエールを送りたい。翌日の2日には、羽田空港での航空機の衝突もあった。道内では、ヒグマの襲撃や出没が相次いだ。福岡県では給食のウズラの卵を喉に詰まらせ、命を落とす事故もあった。他にも枚挙に暇がないほど、事故や災害などが起きた。まさに予測困難な時代、VUCAの時代を現実のものとして感じる1年であった。そう感じたのは私だけではないと思う。

令和6年度は、何もないことを願いたい。しかし、学校を預かる我々校長としては、危機管理、リスク管理をしっかりと行い、安心・安全な学校づくりを進めなければならないと強く思うところである。学校がやらなければならないことは、リスク管理だけでは無く、他にも山積している。こういう時こそ、各地区の校長会、そして道小とのつながりを大切にし、道教委、各市町村教育委員会など関係機関とも連携を図ることが大事である。

「正論をもって正道を歩む」その気概をもってこれからの第1回理事研修会の熱心な協議を期待している。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 会長挨拶 ……………末原 恵蔵 会長

皆様のお陰で総会が順調に運営され、令和6年度道小の活動計画、予算等の議案が承認されるとともに、総会宣言が採択されたことに厚くお礼申し上げます。

本日の理事研修会では、各専門部の組織づくりと年間活動計画、道教委への要望活動、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会の運営体制などについて協議をお願い申し上げます。

この1年間、理事研修会が、校長の職能向上と本道教育の振興を図ること、そして、各地区において理事の皆様が遺憾なく力を発揮していただくことを目指して、充実した研修と情報交流の場になるよう努めてまいりたい。それでは、第1回の理事研修会に当たり、今年度の道小の組織・活動・取組、全連小の報告について、3点お話しする。

一つ目は、令和6年度事務局構成についてである。事務局幹事及び役員は、札幌から13名、他地区から6名、計19名で構成し、地区の割当てについては、事務局研修会などの出席に当たり、距離または交通機関の利便性を踏まえ、石狩、空知、後志、胆振、旭川から1名ずつ、小樽と上川は2年交代を基本に1名の幹事を選出している。また、地区選出の事務局次長は、道教委との意見交換会・各課懇談会及び要望書作成の業務を担当することとなっており、今年度は、胆振地区から選出されている丹野校長がこの任に当たる。事務局員の総数については、組織の見直しにより、平成27年度までは21名であったが、29年度からは19名となっている。また、地区幹事については、チーム道小を一層推進していくため、平成27年度までの2名から、少しずつ増やしており、令和4年度からは6名となっている。

二つ目は、道小から他団体への協力派遣についてである。19名の事務局員により、他団体へ道小の代表として会議に出席し、北海道教育の課題について、小学校の現状や改善するための意見を述べている。

三つ目は、4月19日に行われた、令和6年度第1回全連小常任理事会での植村会長の資料である。新年度のスタートにあたっての話の中段、「小学校時報4月号」の巻頭言「強くしなやかな組織を築く」と書いたことに触れている。これは、全連小会長というよりも、一人の校長として教職員に話している内容を書かれたそうである。これまで、様々な場面で「強いリーダーシップ」と言われた時期があるが、今はそれでは上手くいかなくなっているのではないだろうか、最近すごく考えているとのことであった。そこで、「強くしなやかな」という言葉を置い



たのだそうである。そして、「強くしなやかな」という言葉を自分なりに整理した結果、「凝集性」と「同僚性」に至ったということであった。植村会長が教員になったころは、管理職に「凝集性」ではなく、「一枚岩」と言われていたそうであるが、今は「一枚岩」という言葉では少し足りないのではないかとのことであった。目指すところはそのとおりなのだが、子どもや保護者が多様化している。もしかしたら、それ以上に教職員が多様化していて、様々な考え方や性質、もっと言うと癖とか特性など、すごく幅広くなっており、そういう多様性を包み込みながらも同じベクトルで進むのが、今、目指すべき「凝集性」なのではないかと考えたそうである。教職員からは、時折、管理職に対峙する考え方が出ることもあるが、無理やり一枚岩として中に押し込もうとするよりも、それも包み込んで一緒に頑張ろうというイメージで「凝集性」を語っておられた。併せて「同僚性」も大事であるため、これらの言葉を置いたそうである。

国の動向であるが、4月4日に植村会長が出席した中教審「質の高い教師の確保特別部会」（第11回）の審議内容について書かれている。この特別部会は、4月19日に第12回が、昨日の5月13日には第13回が開催されており、今朝の新聞でも報道されているところである。人材確保法を堅持するとともに、速やかな処遇改善が急務というのが基本姿勢である。在校等時間と教育の成果の関係については、教育という人格の完成・人格の陶冶を目指す営みにおいて、その成果を勤務時間の長さのみで測ることは難しい。時間外勤務手当については、勤務時間の内容を精緻に切り分けて、毎日、一人一人、かつそれを適切に判断することも極めて難しい。教職調整額については、教員の給与を一般の公務員より優遇する人材確保法の堅持において、昭和55年当時の7.42%を担保しないといけないということで、それ相応の教職調整額を引き上げる必要がある。また、働き方改革については、処遇改善すればいいということだけではなく、更なる改善もセットで一体的に進めていくことが大事であると述べられている。この特別部会には、植村会長が委員として出席されている。常任理事を通じて北海道としての意見を全連小に提出する機会があり、その意見は中教審での審議に少なからず反映していただいている。今後もこのような機会を逃さず、全連小を通じ国にしっかりと意見表明する道小でありたい。

最後に、昨日の総会・研修会でも申し上げたとおり、今年度、企画研修委員会を立ち上げて、令和9年度以降の持続可能な道小教育研究大会の在り方について検討を進めることとしている。後ほど、委員としてお力添えをいただく理事をご提案させていただく。昨日に引き続き、本日もよろしくお願い申し上げます。

3 自己紹介

4 議長選出

会則により副会長の輪番から第3ブロック、寺本 公彦副会長の議長に選出。



5 報 告

(1)教育情報について ……田邊 芳明 事務局長

先日、教育情報4月号を各地区の担当を通じて送付したことから、理事研修会用として4月号のダイジェスト版を用意し、その中からいくつかの記事を紹介する。

まずは、「働き方改革、教員確保、教員育成」に関わる話題である。「教員足りぬ小学校 12月は4月の1.7倍」という日本教育新聞の記事である。道小では、対策部が4月当初に、全道各地区の校長会に依頼し期限付き教諭の配置状況調査を行っているが、どこの地区においても4月当初の教員が足りない状況が続いていることが明らかとなっている。しかし、この記事によると、教員が足りず、定数に満たなかった公立小・中学校は、昨年度の場合、年度当初と比べ、時期が遅くなるほど増える傾向にあることが調査で分かった。小学校の場合、4月時点と12月時点で比べると1.7倍に増えていたのである。この調査結果に、そのとおりとうなずける方も多いのではないかと推察する。このような状況を少しでも解決するために、それぞれの市町村教育委員会などが、教員免許を持っている方を探し出して、何とか教育現場に呼び込み、足りていない教員を増やそうと様々な努力をしている様子も伝わってくる。しかし、昨日の総会・研修会後に行った正副会長研修会で話題になった件では、「自校で勤務していた支援員が、教員免許を持っていたため教員として働くことになったが、残念なことに自校ではなく、他校で勤務することになったため、自校の支援員が欠員となった。」という事例が紹介された。教員を増やすことだけに目を向けてしまうと、学校の業務をサポートしている支援員が足りなくなってしまうという、何とも皮肉な結果が現実として起こってしまうようである。

この教員不足の解消と関係しているのが「中教審特別部会」がまとめた素案である。教員不足の解消に向けた総合的な方策を取りまとめたポイントが、表にまとめられている。現在の教員の勤務実態を反映し、更に優れた人材を呼び込むために教職調整額を、現在の4%から10%以上に引き上げるべきだと提言している。他にも、小学校での教科担任制の拡大として小学校3・4年生にも教科担任制の実施、



若手教員の支援強化として新卒1年目には学級担任をもたせない、若手教員をサポートする新たな職の創設（東京都ですでに採用している「主任教諭」をイメージしたもの）などを含めた教員の負担軽減策が盛り込まれていた。なお、昨日の中教審特別部会はこの素案を基に「審議まとめ」を了承し、盛山文科大臣に手交したが、その中には、終業から始業まで11時間以上の休息時間を設ける「勤務インターバル」導入の必要性も強調していた。

では、これらの教員人材確保に向けた文科省の対策について、教職に就くことを視野に大学で学んできた学部生や院生はどのように受け止めたのか、それに関する記事が、「給与増『よかった』 残業代なしに『あーあ』 教員志望の学生たち」である。東京都の教員養成大学に通う3年生の女子学生は、「結局、給特法は変わらず、いくら働いても給料は同じ。残業にブレーキがかからない現状は変わらない。『あーあ』という感じ。」ということで、同級生と進路をどうするか話し合っているとのことである。別の学生の場合は、中学校で教育実習を体験したことで、教員になることへの心配が膨らみ、両親からも民間企業に就職するよう説得されているというケースがある。これらのことから、昨日の総会研修会での伊藤学校教育局長による道教委講話の内容とも関係するが、現場で働いている私たちを含めた教員が仕事の魅力ややりがい、働きがいなどを実感し、その姿を教育実習生たちが見ることによって、教員の仕事に魅力を感じたり安心したりできるようになることこそが、教員を確実に増やす方法ではないかと考えるが、やはり一筋縄ではいかない問題でもある。

話題を変え「教育研修プラットフォーム 道教委5月中旬に説明会 段階的運用開始へ準備」という道通の記事についてである。道教委は、全国教員研修プラットフォーム(Plant)の導入に向けた今後のスケジュールをまとめた。5月中旬に利用者向けの説明会を開催するほか、学校向けの動画を公開して段階的に運用を開始。6月中旬以降に新システムによる研修の申込みや研修履歴の記録を開始する予定となっている。Plantは、教育委員会、大学、公益法人、教職員支援機構、文科省が登録した研修動画を視聴できる「教員研修プラットフォーム」と、研修の受講履歴記録を作成する「研修受講履歴記録システム」の二つの機能を備えている。ちなみに、札幌市の場合、道よりも先行して市教委からマニュアルが送付されており、すでに初任者研修などもこのシステムで受講研修を選択し、管理職がそれを承認していくことができるようになっている。本日の道教委による行政説明でも、このPlantに関する説明があるので、ぜひ聞いてほしい。

時間の関係でここまでとするが、他の記事も是非お読みいただきたい。

(2)会務報告 ・ ・ ・ ・ ・ 丹野 靖彦 事務局次長

4月2日の事務局研修会を皮切りに本日まで記載した業務を計画どおり行うことができた。本日以降の5月の予定も掲載しているのでご覧いただきたい。


(3)第67回道小教育研究空知・岩見沢大会について
 ・ ・ ・ ・ ・ 山田 健一 研修副部長
 ・ ・ ・ ・ ・ 山本 あさ子 研究指名理事

空知・岩見沢大会の参加期待数については、既に一覧のとおりお願いをしているところである。参加期待数は、例年、各地区の会員数に対して一定の割合で割振りさせていただいているが、各会場に収容できる人数に基づき割当てていることをご容赦いただきたい。

空知・岩見沢大会実行委員会では、この期待数に基づき、予算と会場確保などの準備をしている。各地区においては、ご理解とご協力をもって期待数の参加をお願いしたい。

このあと大会実行委員会の研究指名理事山本校長より、進捗状況及び申込みについて説明するが、空知校長会においては、これまで準備作業を精力的に進めている大会実行委員会への全面的なご協力を改めてお願いする。

2次案内はA3表裏となっているが、これを見ながら説明したい。

大会参加者への配付については、1次案内同様、5月中旬に各地区校長会の事務局長宛に、各地区参加割当人数+2で郵送させていただく予定である。各地区に戻られ、事務局長に連絡いただき、各地区の参加会員への配付をお願いする。

その他に大きく4点について説明する。一つ目、会場について。全体会場は岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」大ホールとなっている。また、各分科会場は岩見沢市内4施設11会場を用意している。各会場は1km圏内に位置しており、徒歩10分程度である。短時間の移動により、時間を生み出し、その分参加者同士の交流が生まれるように考えている。二つ目、宿泊と駐車場について。業者を介しての宿泊の斡旋はしないため、宿泊については各参加者に手配をお願いする。13日(金)は、全体会場全館貸し切りのため、駐車場も貸し切りとなるが、台



数に限りがあるため大型バスと大会役員のみの利用に限らせていただく。また、12日(木)、14日(土)についても部分的な借用となるため、一般利用客が駐車することから、全体会場の駐車場は基本的に大型バスと大会役員のみの利用となる。大型バスを借りて来場する場合は、事前に事務局までお知らせいただきたい。その場合、優先してスペースを確保したい。自家用車を検討される方は、既に会場近隣の有料駐車場を道小ホームページにアップしているのでご参照いただきたい。中央バスご利用の方は「市民会館前」バス停で下車していただくと徒歩1分で全体会場に着く。三つ目、参加申込みについて。申込みは例年通りの各地区校長会単位でお願いしたい。手順は、2次案内記載のA～Dのとおりで、地区校長会担当者の取りまとめによる申込み締切は6月17日(月)である。是非、昼食とセットでの申込みの推奨をお願いしたい。変更や取り消しは7月5日(金)まで可能である。7月上旬までに、実行委員会事務局から地区校長会事務局長宛に参加費(昼食申込みを含む)請求書を送付する。それを受け、7月30日(火)までに入金をお願いしたい。参加費の振り込み後、返金はできないため、参加者への周知・徹底をお願いしたい。

申込みの取りまとめについて、各市町村校長会から申込みデータが上がってくるが、地区校長会担当者が打ち直すことなく、コピー＆ペーストでお願いする。フォント、サイズ、体裁等、気にしないでいただきたい。四つ目、事務局校について。4月より、事務局校が岩見沢市立岩見沢小学校に変更になったが、実行委員会事務局長は小山田 学のみである。

<質問> ・ ・ ・ ・ 石狩地区 玉腰 武 理事

参加者一覧に参加期待数が掲載されているが、この人数に理事が含まれているのかどうか。

<回答> ・ ・ ・ ・ 山田 健一 研修副部長
 理事も含まれている。
6 協 議**(1) 令和6年度の活動推進について**

・ ・ ・ ・ 田邊 芳明 事務局長

令和6年度の「活動計画」については、昨日の総会・研修会において、活動方針のみ全文を読み上げご提案させていただいた。具体的な活動内容については、総会・研修会 開催要項に掲載しているのでここでは活動内容として掲げている10項目のうち、今年度、特に取組を積み重ねていく必要があると考える2点について説明する。

一つ目は、活動内容「7 本道教育をめぐる教育諸条件を把握し、その改善と整備・充実、要望活動に努める。」に関わる項目である。特に①として掲げている「質の高い安定的な教育活動の実現に向けた学校組織体制の充実」や⑦の「子どもと向き合う時間を確保するための取組の充実と学校における働き方改革の一層の推進」については、道教委のアクシ

ョンプラン第3期にも示されているとおり、教員としての本来の仕事に専念できる環境づくりなど、学校の組織力が一層高まるよう、人員の確保を含めて積極的に取り組んでまいる。また、6月の全道会長研修会や8月に行う道教委との意見交換会・各課懇談会などでの情報交流や意見交換等を通じて本道教育の状況を把握し、課題解決に向けて道教委とも連携しながら取組を進めていく。

二つ目は、活動内容「ふるさとに誇りと愛着をもち、ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる研究活動を推進し、研究成果の交流を図るとともに、校長自らの研鑽に努める。」に関わる項目である。今年度開催する、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会については、今年度も会同による開催のため準備を進めている。大会実行委員会のお力をお借りし、会員の職能向上の機会として有意義な研修の場、貴重な学び合いの場になるよう努める。また、令和8年度に開催する全道小研究協議会北海道大会に向けた取組も進めていく。これについては、既に計画委員会を立ち上げ、開催地区である札幌市小学校長会と緊密な連携と意思疎通を図りながら準備を進めているところである。さらに、道小教育研究大会については、昨今の会員減少や社会状況の変化といった課題である持続可能な研究大会の在り方の検討が求められていることから、「企画研修委員会」を立ち上げて議論を重ねていく。

以上の点を、活動推進の重点として進めていく所存である。

(2) 副会長、理事の専門部所属について

・・・末原 恵蔵 会長

所属一覧を配付後、所属を提案。

(3) 専門部開催について

・・・丹野 靖彦 事務局次長

各部で活動計画についての話し合いとなる会場は、経営部・研修部が「グラブ」、対策部・情報部が「レガート」で行う。専門部会終了後、道教委行政説明が始まるまで休憩時間とする。

(4) 各部年間活動計画について

【経営部】近藤 大作 経営部長

経営部では経営部資料の年間活動計画にのっとり、各地区会員の皆様のご支援をいただきながら業務を推進する。

活動方針は4点である。一つ目は、教育制度、教育改革及び諸法規等の情報収集と情報の提供・資料化である。二つ目は、学校運営上の諸問題に関わる法制研究である。三つ目は、学



校経営の管理運営に関する調査及び研究である。四つ目は、教育改革や学校課題に即応した法令・法規の情報提供である。

業務内容は3点である。一つ目は「地区別教育経営研究会」通称「地教研」の開催協力についてである。この研究会は、道中の経営部と道小の経営部が隔年で企画と運営を担当し実施しており、本年度は道小が担当する。開催に当たっては、各地区から「質問事項」をいただき、その回答などについて事務局幹事で調査・学習会を実施し、各地区の研究会に情報提供をしていく。また、「地教研のまとめ」については、道小ホームページに掲載していく。二つ目は「学校経営の資料」についてである。本年度は、道小経営部が中心となり作成し、道中経営部と連携協力しながら7月に発行する予定となっている。地教研はもちろんのこと、校長が学校経営をしていく際の参考資料となるよう多くの会員にご活用いただきたい。三つ目は「法制研究集録第55集」の作成である。本年度は道中の担当で、道小と連携を図りながら作成し、来年の2月にはホームページに掲載できるように進めていく。

最後に、この会の連絡で経営部副部長より、各地区への提出物などをお願いを、理事や各地区の経営部長の皆様にお伝えするので、ご協力をよろしくお願いしたい。

【研修部】西田 浩人 研修部長

研修部の活動の中核となるのは、研究大会である。先ほど、山本研究指名理事から説明したように、道小教育研究空知・岩見沢大会に向け、現地の大会実行委員会と連携を図りながら、大会の諸業務を進めている。本大会は、昨年度開催した渡島・北斗大会と同様、二日間日程での大会となる。コロナ禍であってもここ数年間、しっかりと積み上げてきた大会とのつながりを大切にし、「ふるさとに誇りと愛着をもち、ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる、校長の果たすべき役割と指導性」について研鑽を深めてまいりたい。

大会1日目の分科会運営は、道小の合言葉「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の実現に向けて、本日午後の全体会を皮切りに、4回の分科会運営者研修会をもち、研究内容の確認、研究成果の交流と各地区への還元など、大会を通して研究内容の充実・発展を目指し、当日の分科会の進め方について具体化していく。第1回分科会運営者研修会には理事の他、研究発表者、開催地司会者、そして、担当事務局幹事が参加し、運営面・内容面の深まりに向け連携を図っていく。理事には、各分科会の趣旨説明者あるいは運営責任者としてお力添えをいただくことになる。なお、研修部長、研究指名理事などを分



科会運営者から除く都合、理事による運営責任者が空席となる分科会がある。それについては大会実行委員会で対応いただき、運営責任者が全ての分科会に位置付くこととなっている。また、担当事務局幹事が、大会実行委員会と事前に打合せを十分に取、円滑な運営となるよう進めていく。

大会終了後には大会実行委員会と連携を図り、研究集録「小学校教育別冊 61 号」を編集する。これは令和6年12月発行の予定である。また、各地区の研究活動については、2月中旬に道小ホームページ上に掲載し、交流に努める。

この他、毎年行われる全連小の教育課程等に関わる各種委員会調査を、今年度も各地区にお願いする予定である。集計、分析結果については、全連小で2月末に発行される「研究紀要」に掲載する。

「研究集録」「全連小からの調査」「各地区の研究活動」の依頼事項については、このあとの連絡で、研修副部長から説明するのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、本年度も皆様のご協力を得ながら、新しい時代に即応した、新たな学びへの進化を図る学校創造に向け、継続性のある実践的な研究に邁進してまいりたい。

【対策部】 ……………半田 健一 対策部長

令和6年度の対策部の活動計画について、概要を説明する。

初めに、活動方針である。一つ目は、学校経営上の諸問題や教育条件についての要望活動のための調査、情報収集などを行うことである。二つ目は、会員の身分確立や勤務条件などの充実、組織の強化に必要な状況把握などを行うことである。三つ目は、他団体との連携強化、教職員の福利厚生の実現を目指し、その状況把握と条件整備を図ることである。

次に、主な業務内容である。一つ目は、文教施策及び教育諸条件の充実に関することである。その中身としては、「学校経営上の問題点の把握及び対応等について」「身分の確立と待遇・勤務条件改善等について」「条件整備、教育予算の要望、教職員定数等の整備改善等について」である。二つ目は、組織強化に関することである。その中身としては、「組織状況の把握と関係機関や他団体との連携強化の推進」である。

今後、これらの活動方針、業務内容に沿って、次の四つの具体的な業務を行う。一つ目は、会員必携の編集・発行である。組織の状況把握、関係機関との連携、必要な資料の提供など、道小組織の基本と考えて、発行の準備を進めていく。二つ目は、全道会長研修会の計画・運営である。共通話題として、「人材の育成に関わること」「教育課程に関わること」「各地区における話題」の三つを設定し、意見



交流を行うことで、文教施策への要望や意見表明につながる充実した研修会にしていきたい。今年度は共通話題を「各地区における話題」とし、各地区で課題と感じていることや、他地区の取組情報として知りたいことなどを交流することで、より活発で充実した話し合いにしていきたいと考える。三つ目は、組織の実態調査である。全道調査として期限付教員の配置状況、広域人事や役職定年校長の動向など、その他必要に応じた調査を行う。そして、その調査結果については、理事研修会で報告するとともに、道小情報特別号や道小ホームページに掲載する。四つ目は、他の部同様に、道教委との意見交換会・各課懇談会に向けての取組である。関係者と連携の下、運営補助を行っていく。

最後になるが、対策部の業務は、各地区からの情報提供がなければ成り立たないものばかりであり、必要な調査を実施する場合は、地区理事及び事務局長を通してお願いすることとなるため、今年度もご協力のほどお願い申し上げます。

【情報部】 ……………大西 展史 情報部長

情報部の年間活動計画について説明する。

情報部では、総会で承認された道小の活動方針を踏まえ、各地区校長会や会員の連携と対外的な広報活動を推進し、会員の連帯意識の高揚と運営組織の強化、および活動の効率化に努めてまいる。そのため、教育情勢や道小の機関会議での審議内容や決定事項、活動状況についてできるだけ広くかつ、迅速にお知らせすること、各地区校長会や会員の活動、意見などについての情報交換のツールとして、その役割を果たすこと、北海道中学校長会や他の教育関係団体と連携・協力し、教育世論を喚起することなどを念頭に活動を推進していく。

具体的な業務内容として、5点説明する。一つ目は、「教育北海道」の発行である。「教育北海道」は年2回、7月と3月に発行する。原稿執筆についてはローテーションにてご依頼するので、執筆者決定の手配をお願いしたい。二つ目は、「道小情報」についてである。理事研修会の協議内容については、道小ホームページに掲載し報告する。また、「道小情報」PDF版を各地区の広報・情報担当者に配信し、各担当者から地区の会員に届けていく。三つ目は、「道小情報道中だより号外」の発行である。道教委への文教施策、予算策定に関する要望や「道教委との意見交換会」「各課懇談会」の様子を掲載していく。道中との共同編集であるが、本年度は道中が幹事として制作する。四つ目は道小ホームページの充実である。道小教育研究に関する情報、総会・研修会や理事研修会の内容、各地区の校長会の様子など、さまざま掲載していくのでご覧いただきたい。五つ



目は、全連小の教育研究シリーズや小学校時報への原稿依頼についてである。各地区に原稿提供のご協力をお願い申し上げる。

(5) 道教委への要望活動について

……丹野 靖彦 事務局次長

道教委への要望については、道小・道中・道公教が協働して昨年度から要望書を作成してきたところである。お手元に配付したものが完成した要望書であるのでご参照いただきたい。5月8日に各会長から道教委教育長へ手交している。また、6月に教育長が代わられる予定であるので、その後、新教育長との面談の機会に要望書について懇談する機会をもてるよう調整中である。また、この要望書については、今後8月5日に予定されている道教委との意見交換会・各課懇談会でも話題にしていきたい。

なお、意見交換会・各課懇談会については、今年度は道中が担当しており、今後、詳細が決まっていくことをご承知おきいただきたい。

(6) 第67回道小教育研究空知・岩見沢大会の 分科会運営者の委嘱について

(7) 企画委員会の委嘱について

……末原 恵蔵 会長

所属一覧を配付後、協議題(6)(7)を続けて提案。

(8) その他

特になし

7 議長退任 ……………寺本 公彦 副会長

8 連 絡

- (1) 地区研修補助金等について
- (2) 第76回全連小研究協議会徳島大会、第67回道小教育研究空知・岩見沢大会に向けての第1回分科会運営者研修会について
- (3) 全道会長研修会に関わる事前調査について
- (4) 各部からの依頼事項等について
- (5) 各種送付数、弔電、全連小バッジについて
- (6) 第2回理事研修会について
- (7) その他
 - ・特になし

9 閉会の言葉 ……………大谷 昌史 副会長

新年度が始まり1か月余りのお忙しい中、全道各地よりご参集いただき、心より感謝申し上げます。

さて、先日の総会・研修会、本理事研修会にて令和6年度の活動が本格的に始まった。第



4期教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」がコンセプトとして示された。私自身、子どもたちの「やってみたい、やってみよう」を大切にしたい主体的な学びや個別最適な学びの実現を図ることから、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高め、笑顔にすることが大切だと考えている。また、多様な人と関わりながら成長する中で学びを広げ、深めて生まれる笑顔が家庭や地域に循環することから、学校に関わる全ての人のウェルビーイングの向上を大切にしていきたいと思います。

その実現のために私たち校長が、授業改善や教育活動の充実、多様性の中での学びを推進することにより、自校の、各地区の、ひいては北海道の教育力が高まり、校長自身もウェルビーイングが高まり、更に教育力が上がるスパイラルになると考える。そのためには、校長一人一人の心と体の健康が大切である。

校長一人一人のご健勝とご活躍、北海道小学校長会の更なる発展を祈念申し上げ、令和6年度第1回理事研修会閉会の言葉とする。

令和6年度 道小役員名簿

役 職 名	地 区	氏 名	市町村	学校名
会 長	札 幌	末原 恵蔵	札幌市	東札幌
副会長	後 志	中田 恭太郎	真狩村	真 狩
	留 萌	村井 亨	留萌市	東 光
	函 館	寺本 公彦	函館市	八 幡
	胆 振	大谷 昌史	室蘭市	旭ヶ丘
	釧路市	野口 育子	釧路市	中 央
	札 幌	千葉 一博	札幌市	三里塚
監査委員	小 樽	遠藤 隆典	小樽市	稲 穂
	宗 谷	吉崎 健一	稚内市	潮見が丘
	檜 山	佐藤 等	今金町	今 金
	空 知	小玉 剛	栗山町	栗 山
	帯 広	鈴木 宏和	帯広市	稲 田
事務局長	札 幌	田邊 芳明	札幌市	豊 園

理 事 名 簿

役 職 名	地 区	氏 名	市町村	学校名
事務局次 長	札 幌	稲上 敏男	札幌市	清 田
	胆 振	丹野 靖彦	苫小牧市	豊 川
会計理事	札 幌	村上 智樹	札幌市	白 楊
理 事	石 狩	玉腰 武	千歳市	桜 木
	札 幌	白崎 正	札幌市	手稲東
	後 志	半田 健一	余市町	黒 川
	小 樽	篠崎 大作	小樽市	銭 函
	上 川	豊田 央	上富良野町	上富良野
	旭 川	高野 拓実	旭川市	朝 日
	留 萌	秋葉 良之	留萌市	留 萌
	宗 谷	畑 慎司	猿払村	浜鬼志別
	渡 島	西田 浩人	八雲町	八 雲
	函 館	高間 猛	函館市	大森浜
	檜 山	笠松 靖史	乙部町	乙 部
	空 知	三好 考央	雨竜町	雨 竜
	胆 振	近藤 大作	伊達市	伊 達
	日 高	木田 理博	平取町	平 取
	十 勝	森 浩嘉	幕別町	幕 別
	帯 広	野中 利晃	帯広市	帯 広
	釧 路	大西 展史	白糠町	庶路学園
	釧路市	加藤 誠一	釧路市	釧 路
	根 室	根本 渉	別海町	別海中央
	オホーツカ	天野 昌明	北見市	美 山

指名理事名簿

役 職 名	地 区	氏 名	市町村	学校名
研 究	空 知	山本 あさ子	岩見沢市	日の出
へき・複連	十 勝	小野田 年克	幕別町	明 倫
道 特 協	札 幌	佐々木 一好	札幌市	新発寒

事務局幹事・事務所員

所 属	地 区	氏 名	市町村	学校名
経営部	札 幌	下山 弘美	札幌市	新琴似北
	旭 川	佐藤 美鶴	旭川市	神楽岡
	石 狩	田中 亮一	江別市	江別第二
研修部	札 幌	山田 健一	札幌市	琴似中央
	札 幌	松本 昌也	札幌市	大倉山
	札 幌	八田 博之	札幌市	新琴似西
	札 幌	西村 貴史	札幌市	北の沢
対策部	札 幌	里館 大	札幌市	みどり
	後 志	丸岡 哲也	古平町	古 平
	小 樽	渡辺 琢史	小樽市	塩 谷
情報部	札 幌	高畑 均	札幌市	桑 園
	空 知	高原 直樹	深川市	深 川
	札 幌	高梨 美奈子	札幌市	前田北
	札 幌	岩村 鋭介	札幌市	駒 岡
所 長		池田 洋	札幌市	事務所
主 任		鈴木 美紀子	札幌市	事務所